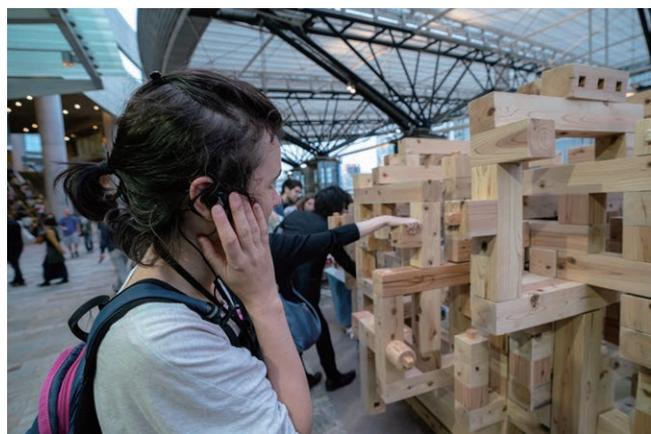

六本木アートナイト2018 英語ガイドツアー Lost in Art Translation

報告書



六本木アートナイト実行委員会



六本木アートナイト 英語ガイドツアー “Lost in Art Translation” 実施報告書

1. 本事業の概要

2018年5月26、27日に開催された六本木アートナイト2018（以下RAN）では、2009年のイベント開始以来、初めての試みとして、外国人来場者を対象とした英語によるガイドツアーを企画・実行した。

〈目的〉

- ・ RANの魅力により多くの人々に知ってもらう
- ・ インバウンドの観光客と日本在住の外国人を、どちらも対象とし、アートナイトを通じて六本木の街や日本のアートについて理解を深めてもらい、親しみを持ってもらう
- ・ 外国人来場者のニーズを把握することで今後のRANの外国人対応、多言語対応の充実を図る。
- ・ イベントコンテンツとしてだけでなく、芸術分野のインバウンド対策・多言語対応に、広く有益な知見を得るリサーチ事業としても機能させる。

〈企画コンセプト〉

“Lost in Art Translation”

東京・六本木ならではの作品に彩られる一夜限りのアートの祭典。異なる文化や背景を持つ人々がそれを楽しもうとするとき、翻訳不要なものや説明が必要なものがあるだろう。「おぼけ」は「ゴースト」と同じ？六本木ってどんな街？「こいのぼり」って何？

このツアーでは、六本木の街を巡り、作品にまつわる情報やコンセプトを英語で解説するだけでなく、参加者の「これは何だろう？」「それはどういう意味だろう？」に丁寧にこたえていく。外国へ行けば誰もが経験する「ロスト・イン・トランスレーション」（言語がわからない地域で自分を見失うような感覚）になることを楽しみながら、ただ解説を聞くだけではわからない日本特有の文化に由来する言葉や感覚、アート作品の言葉にできる部分とそうでない部分、普段から持っている日本に対する疑問などを丁寧に検証し、話し合うことで、一方通行の情報提供でなく、相互理解を促進するディスカッションベースのツアーを開催する。翻訳・対話・ツアーの三つの要素を融合させたこれまでにない鑑賞体験を提供しながら、異なる文化背景を持つ人々だからこそ気づく、新たなアートナイトの見え方を探る。

〈実施内容〉

開催期間中、六本木ヒルズエリアで2回、東京ミッドタウン&国立新美術館エリアで1回、計3回のツアーを実施した。

ツアー概要

- ・ ツアー① 5/26(土) 18:00-20:30
六本木ヒルズ版(2.5時間)参加者19人

-
- ・ ツアー② 5/26(土) 21:00-23:30
東京ミッドタウン+国立新美術館版(2.5時間)参加者 16人
 - ・ ツアー③ 5/27(日) 14:00-17:00
六本木ヒルズ版(3時間)参加人数5人
- 合計 40人

定員：各回最大20人(予約優先、ドロップイン・アウト可)

参加費：無料

参加条件：英語でお話できる方

2. 事業の構成

〈ツアー時間〉各回2.5~3時間

前半の1.5時間：エリア内の作品をめぐるながら解説を行う。

後半の1時間：会議室や芝生などに移動してディスカッションの時間とした。

作品鑑賞の時間では、作家の基本情報・コンセプト・鑑賞の手助けとなる文化背景にまつわる情報などを英語で解説。作家の過去作や日本文化特有のしきたりなどを説明する際は、画像も見せながら解説を行った。混雑の中ツアーをスムーズに行うため、イヤホンガイドを使用し、参加者は自由に作品を鑑賞しながら、解説を聞くことができるようにした。

ディスカッションの時間では、まず作品鑑賞中に説明できなかった背景知識などをさらに詳しく説明。各ツアーで見た作品で参照されていた文化や習慣、考え方などを「Lost in Translation」をテーマにピックアップして紹介した。



〈英語解説で具体的に工夫した内容〉

六本木ヒルズ版では、具体的には三枝文子氏がモチーフとしていた回り燈籠から「走馬灯」という言葉の成り立ちや現在使われている意味について説明した。宮本宗氏の「影ワニ」からは日本海沿岸の町に伝わるシャチやサメをモチーフとした伝説を紹介した。また、「おばけ」をテーマに様々なプロジェクトを展開した金氏徹平氏作品から、おばけ・幽霊・妖怪の違いについても解説した。その後、参加者とそれぞれの国

にある、似たような伝説について話し合い、日本文化の面白いと思う点について意見を交換し、作品について感想を述べ合った。

六本木ヒルズ版では森ビルの会議室で机を囲み参加者全員で話をしたが、東京ミッドタウン+国立新美術館版では参加人数が多かったこともあり、芝生の上に腰を下ろして少人数のグループに分かれて意見を交換した。



〈成果〉

- ・ウェブ媒体や紙媒体で英語の情報が少ない中、英語ツアーの実施は参加者にとっても喜ばれた。
- ・少人数で参加者の顔を見ながら話をすることで、日本語がわからなくても、観光客でも、アートの知識があまりなくても、RANに参加して作品をじっくり鑑賞したという感覚を持ってもらうことができた。
- ・参加者の多くが、アンケートで今後もRANに「絶対来場する」「来場する」と答えている。
- ・作品鑑賞の合間やディスカッションの時間で、画像を見せながら説明した日本特有の文化やそれに関わる言葉・逸話・風習の紹介などが、特に好評だった。
- ・ディスカッションで参加者が意見交換することについては、積極的に楽しむ人とそうでない人に別れたが、大半の人は自分の感想を述べたり、日本に来て感じたことを共有したりする機会を喜んでいた。日本を訪れる人は、(日本の文化や伝統が好きであればあるほど)日本の礼儀の文化を重んじて「お客さん」「外部の人」として「礼儀正しく」振る舞うべきだと緊張している人が少なくない。そしてその中で何か疑問や違和感を感じても、日本人とそれを共有したり疑問をぶつけたりする機会がない。日本の大学に留学中だというカナダ人学生は、来日してから毎日が「Lost in translation」だと言っていたが、それをディスカッションの時間で日本人も含む参加者と笑い話にできた経験がとても嬉しかったようだ。外国人への風当たりがまだまだ強い日本で、「自分も自由にアート鑑賞を楽しんでいいのだ」という感覚を持ってもらえたのではないかな。



3. ツアープログラム詳細

ツアー① 5/26(土) 六本木ヒルズ版





18:00	六本木ヒルズ 巨大クモ・ママンの下 集合	
18:00-18:20		ツアーの流れ説明、鑑賞開始 (1) マグダ・セイエグ まちと美術館のプログラム 《六本木ヒルズ 15周年記念 インスタレーション》 (2) ダーン・ローズガールデ《マーブルズ》 (3) オノ・ヨーコ《夢》
18:20-18:30	アリーナへ移動	(4) 六本木ヒルズ・森美術館 まちと美術館のプログラム《紡木プロジェクト》
18:30-18:55	オープニング鑑賞@アリーナ	(5) 《タワー》金氏徹平、 オープニングアクト (6) DUNDU(ドゥンドゥ)《光の巨人》 (7) 宮本 宗《影ワニ》 パフォーマンス
18:55-19:10	毛利庭園	(8) 生田目 礼一《未来庭園》 (9) 三枝 文子《踊るランタン》
19:10-19:25	毛利庭園→旧ZARA北側の入り口からウェスト ウォークに移動 毛利庭園、六本木(ヒルズエリア)の歴史紹介	(10) ヒルズカフェに立ち寄り作品鑑賞 《inVisible Playcity 都市は見えない遊び場展》
19:35	映画館側の出口から出て森ビル会議室に移動	
19:40		ディスカッション: 「走馬灯」「影ワニ」「おばけ」をテーマに
20:20		アンケート
20:30		解散

ツアー② 5/26(土) 東京ミッドタウン+国立新美術館版



21:00	国立新美術館西出口前インフォメーション 集合	
21:05-21:25	移動→2階E展示室	(1)《こいのぼりなう!》 須藤 玲子×アドリアン・ガルデール× 齋藤 精一 (2)オノ・ヨーコ《夢》
21:25	外へ出る→天祖神社へ移動	(3)鬼頭 健吾 《hanging colors》《broken flowers》
21:35-21:50	天祖神社	(4)森 貴之《UVLS / Komainu》 天祖神社・稲荷・七福神の説明、 六本木(ミッドタウンエリア)の歴史紹介
21:50-22:10	ミッドタウン	(5) 志茂 浩和 《挟まる人》(ミッドタウン向かい) (6) JR《インサイドアウト・プロジェクト IN JAPAN presented by Reborn-Art Festival》 (7) 大村 雪乃《Tokyo city view》 (8) 牛島 光太郎 《組み合わせの方法 -六本木の場合-》 (9) DUNDU(ドゥンドゥ)《光の巨人》 22:00~22:30 (10) 栗 真由美《ビルズクラウド》 (11) 小原 典子《鳥の交差点》 (12) 宇治野 宗輝《ドラゴンヘッド・ハウス》
22:10	芝生へ移動	
22:15	ミッドタウン芝生	(13) 鈴木 康広《空気の人》
22:15-23:00	ミッドタウン芝生	ディスカッション:《こいのぼり》《狛犬》 《空気を読む》をテーマに
23:00-23:15		アンケート
23:15-23:30		キャノピースクエアでの宇治野 宗輝 《レクチャー・パフォーマンス》を案内
23:30		解散

ツアー③ 5/27(日) 六本木ヒルズ版:ツアー①参照

4. 提案 — より多くの外国籍の方にアートナイトを楽しんでもらうために

〈改善すべき点〉

- ・ RANは人が多く混雑するので、その中でスムーズなツアー方法を考える必要がある。混雑で歩きづらい、聞きづらい、作品が見えづらいことにフラストレーションを抱える参加者が多かった。
- ・ ツアーの途中で離脱する人も多かった。ツアー時間・構成について要検討。
- ・ このようなツアーがあることをより多くの人に知ってもらえるよう、広報を充実させるべき。とくに英語話者の人にどこでどのように情報を伝えるのか要検討。(SNSでの告知の充実や、日本への観光客が利用する口コミ旅行サイトにイベントを立ててほしいというリクエストが参加者からあった)
- ・ 事前の申し込みや問い合わせにも英語対応する必要があるので、受け入れ側にその体制を整える必要がある。
- ・ 一夜限りの展示という性質上、RANの全体像や作品の詳細が直前までわからないので詳細をふまえた事前のツアー組み立てが難しい。作品の詳細がわからなくても事前に準備できるようなツアー内容を引き続き検討する必要がある。

〈今後の対応〉

- ・ 今回のツアーで明らかになったことを来年以降の外国語対応に活かせるよう、報告書・ムービー・写真などで記録を残しておく。
- ・ 来年の外国語対応の検討を早めに始める必要がある。
- ・ ツアーだけでなく、英語によるトークを求める声も参加者から上がった。混雑する会場内をツアーする難しさを回避する意味も含めて、開催初日のオープニング前などに英語によるレクチャーを行うのはどうか？ 講堂などに参加者を集め、スライドを用いて出品作品や作家、その背景やコンセプトについて英語で説明し、おすすめのルートなどを紹介して、実際の鑑賞は自由に見てもらおうという方法。

〈ツアー企画者プロフィール〉

Art Translators Collective (アートトランスレーターズコレクティブ)は、2015年に結成されたアート専門の通訳・翻訳およびそれに関連する企画の運営などを行う団体。アートの制作プロセスに総合的に関わることで、同時代を生きる当事者として表現者に寄り添い、単なる言葉の変換を超えた翻訳・通訳を通じて対話を実現していくことを目指し活動している。<http://art-translators.com/>

田村かのこ(たむらかのこ)

1985年東京都生まれ。アート・トランスレーター。タフツ大学工学部土木建築科(米国)、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科にてそれぞれ学位を取得後、通訳・翻訳、編集、広報など幅広く活動。2015年にアート専門の通訳・翻訳者の活動団体「Art Translators Collective」をメンバーと共に設立し、表現者に寄り添う翻訳・通訳の提供と新たな価値創造を試みる。2016年より東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻特任助教を兼任し、アーティストのためのコミュニケーション授業を担当。またディレクターチームに所属するNPO法人「芸術公社」では、コミュニケーション・プラットフォーム「r:ead (レジデンス・東アジア・ダイアログ)」のトランスレーション・ディレクターとして、東アジアにおける対話のあり方を探っている。

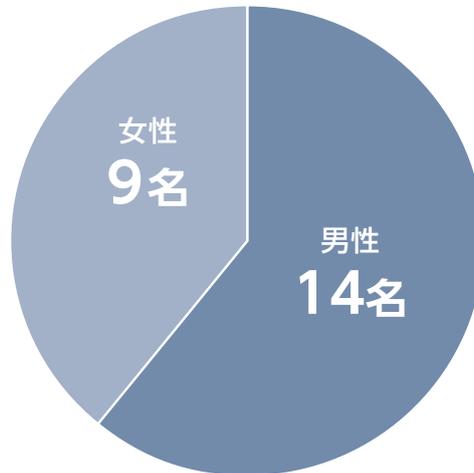
縦山智子(もみやまともこ)

作曲家、ドラマツルク、通訳・翻訳家。スタンフォード大学にて作曲と文化心理学を二重専攻し卒業。文化庁新進芸術家派遣制度研修員としてオランダ王立ハーグ音楽院作曲科留学。世界各地で社会的マイノリティのコミュニティや異分野の専門家等と協働し、領域を横断するサイト・スペシフィックなプロジェクトを展開。背景の異なる人々を巻き込んだ〈旅〉をデザインし、人と環境との対話を媒介することで、共同体に属する複層の物語を紡ぎ出し、アイデンティティの問題を掘り下げている。コンサート音楽からラジオ作品、ツアー型の演劇作品、インタラクティブな空間インスタレーション、儀式パフォーマンスまで、表現メディアは多岐にわたる。Art Translators Collective 創立メンバー、日本相撲間芸術作曲家協議会理事、マイノリマジョリテ・トラベル主宰。

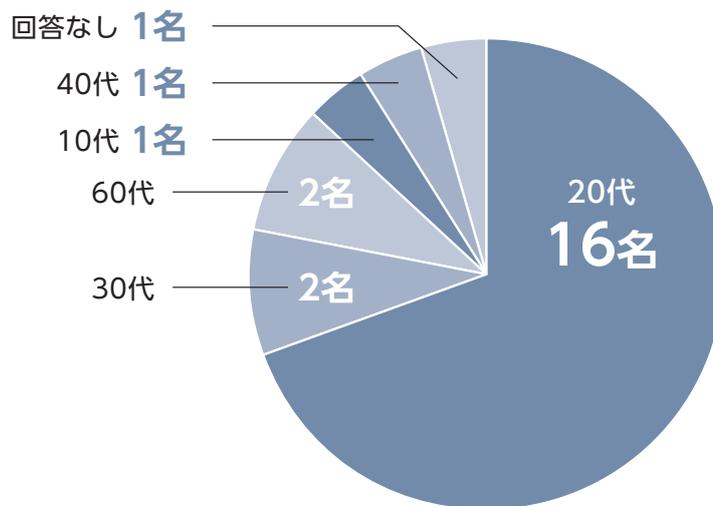
5. アンケート結果

【ツアー後実施アンケート集計結果】（回答者数：23名）

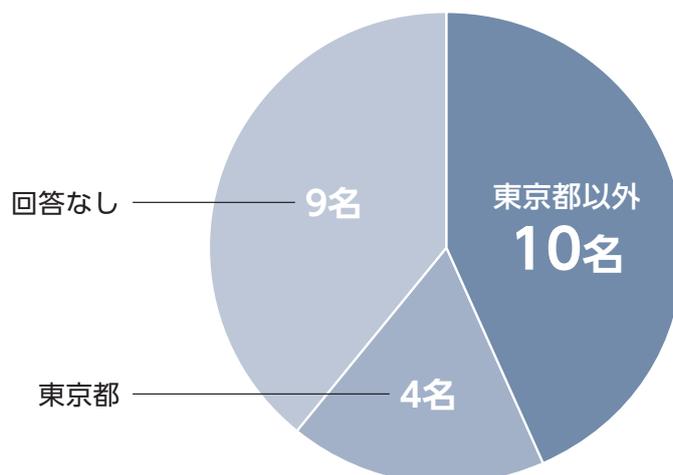
① 性別



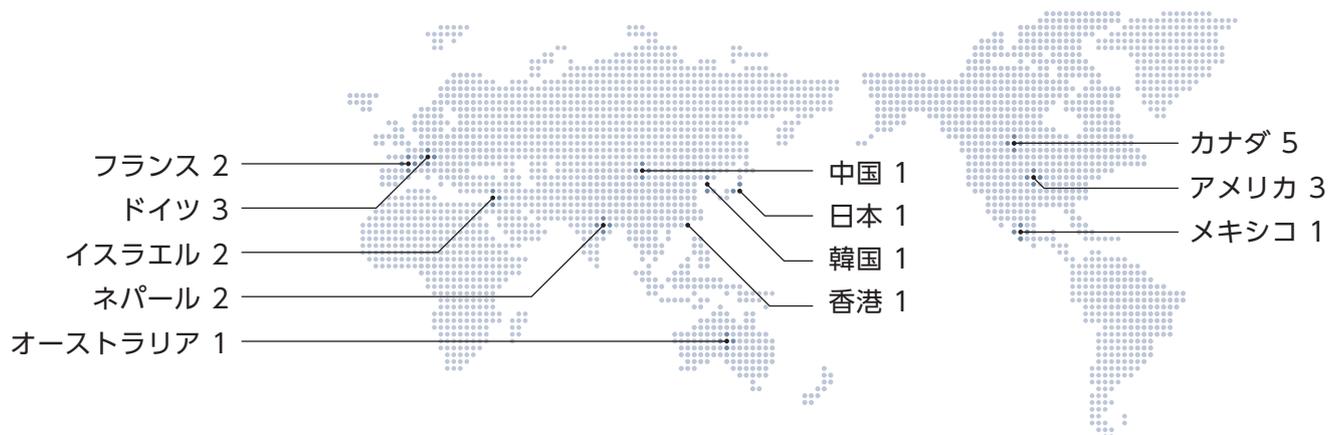
② 年齢



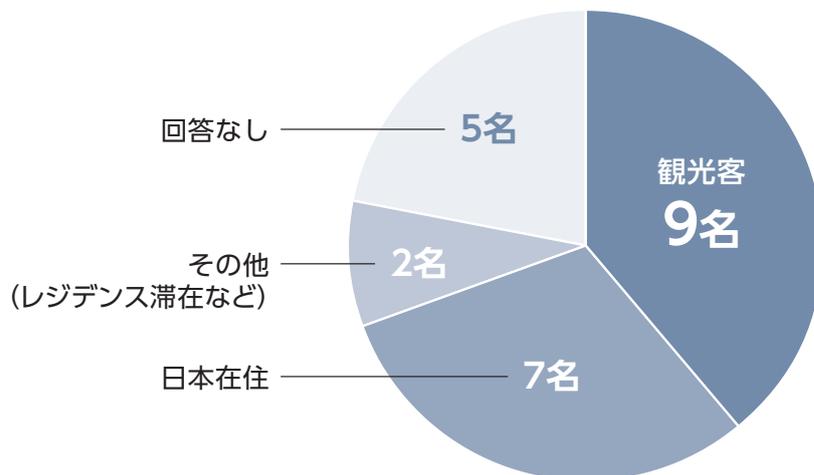
③ 居住地



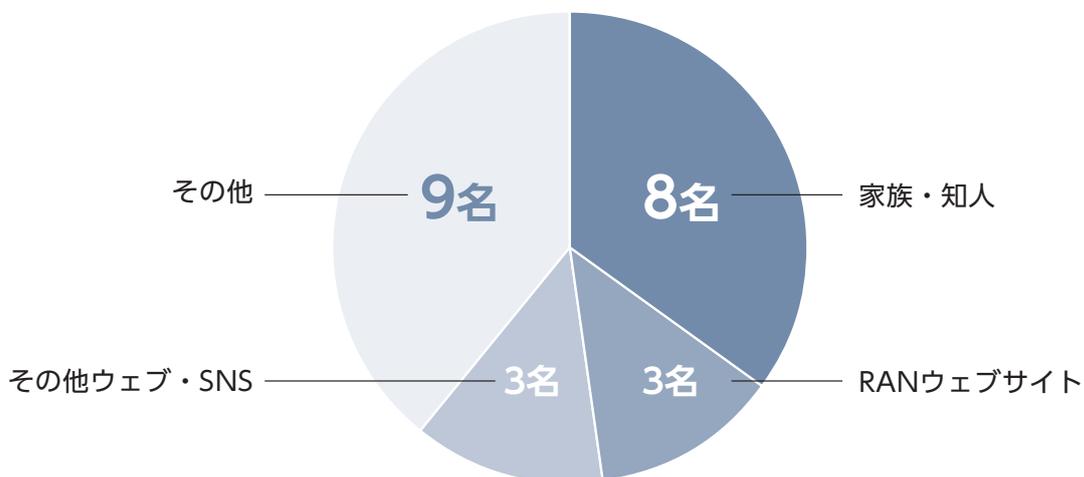
④ 出身国



⑤ 日本には観光でお越しですか？住んでいますか？

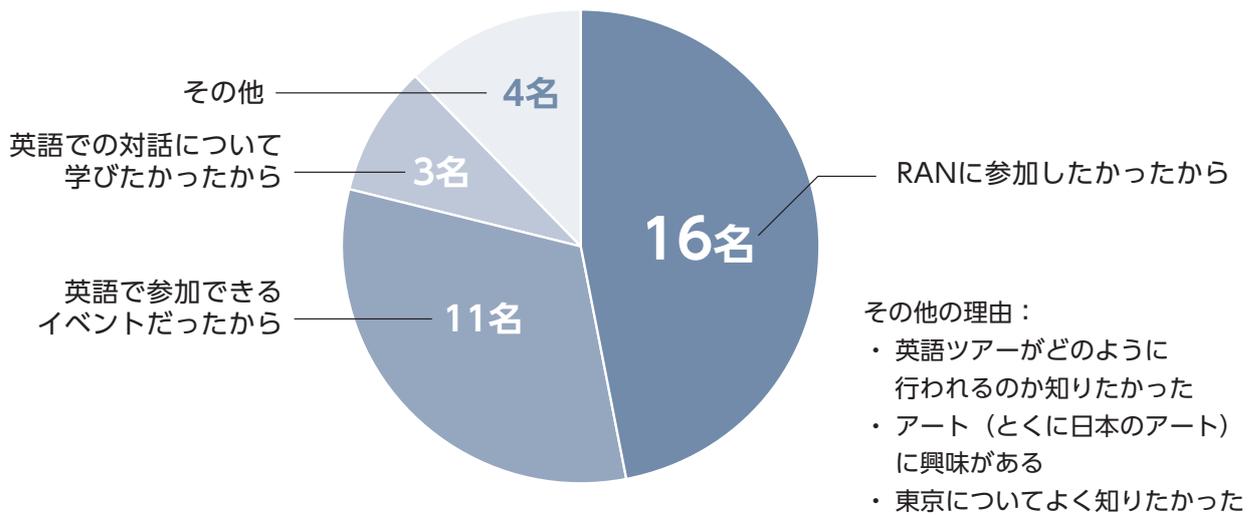


⑥ 本プログラムをどこでお知りになりましたか

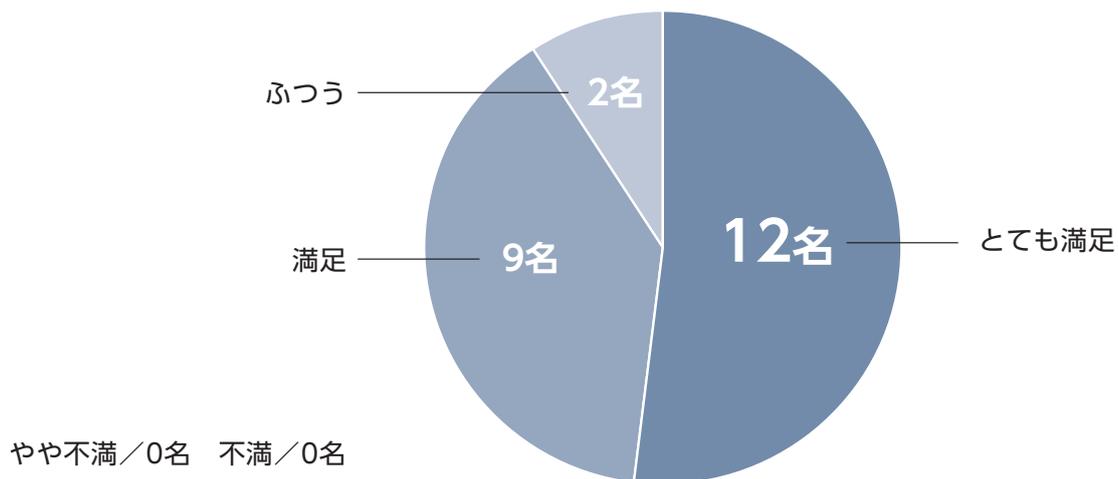


その他：インフォメーション／国立新美術館／滞在中のレジデンスからの紹介

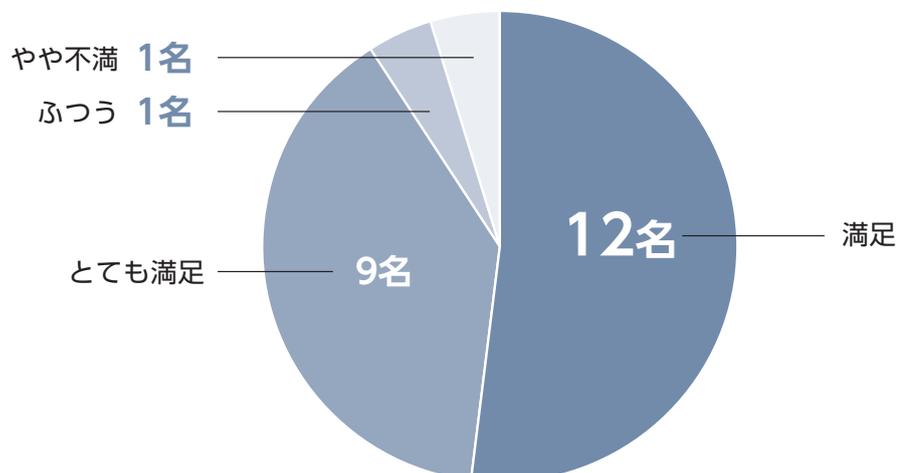
⑦ 本イベントに参加しようと思った動機は何ですか？（複数選択可）



⑧ ツアーの長さ、ルートについてはいかがでしたか



⑨ 作品鑑賞についてはいかがでしたか。（鑑賞時間や作品選定など）



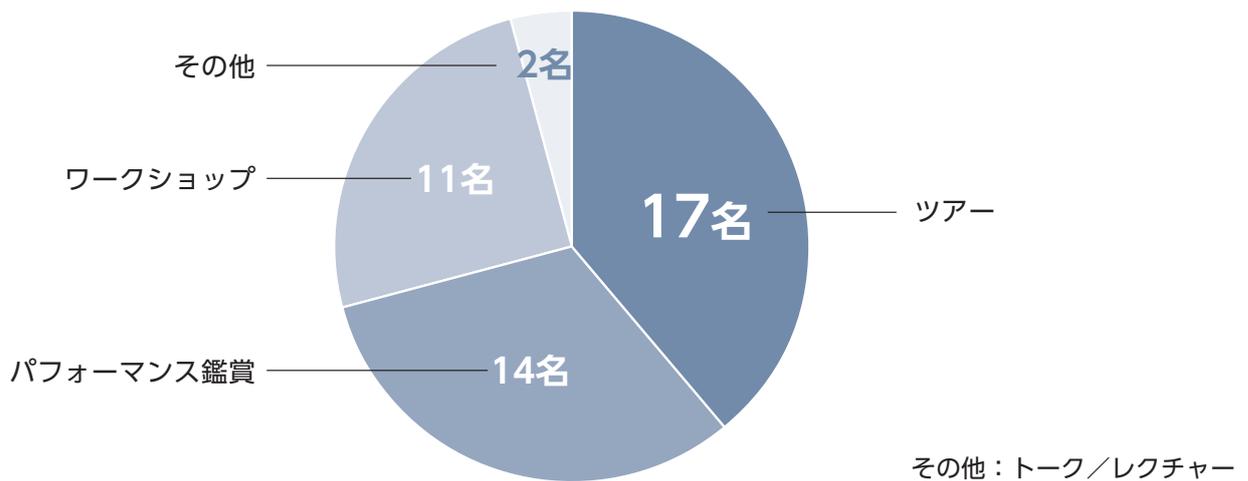
ツアーのよかったところ

- ・解説が素晴らしかった、わかりやすかった
- ・ディスカッションの時間がとても有意義だった
- ・作品を楽しむための様々な情報や背景知識、日本の文化などの説明が充実していた
- ・イヤフォンガイドが便利だった
- ・いろいろな場所を見れた
- ・たくさん作品があって楽しめた
- ・すべてよかった!

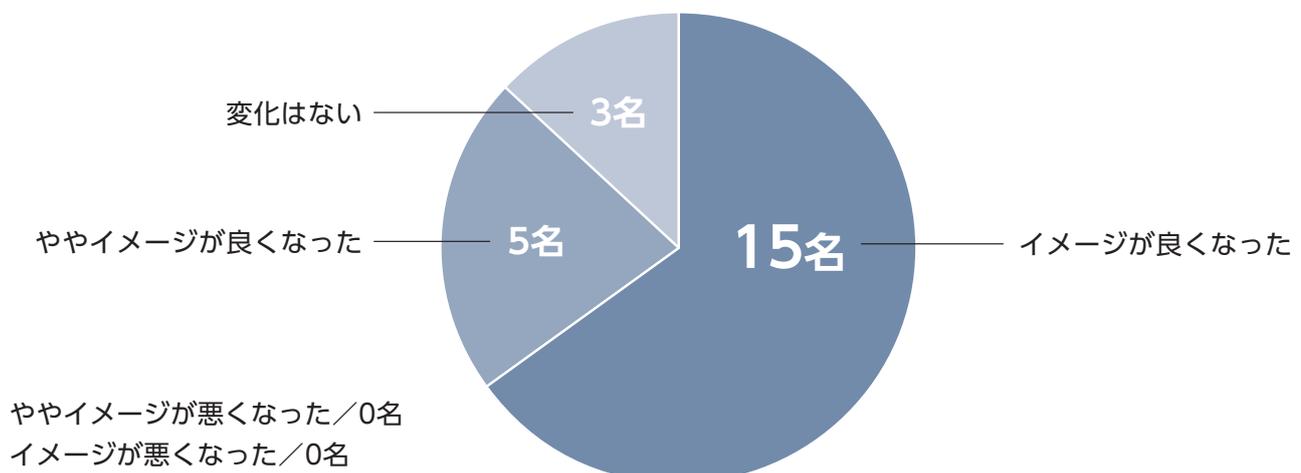
改善できそうなところ

- ・ツアー時間
(長い方が良い、短い方が良い、どちらも意見あり)
- ・それぞれの作品をもっと長く観たかった
- ・もっと作品を観たかった
- ・声が聞こえ辛かった
- ・鑑賞時に人が多すぎた
- ・グループの規模が小さいほうが良い
- ・休憩がもっとほしい

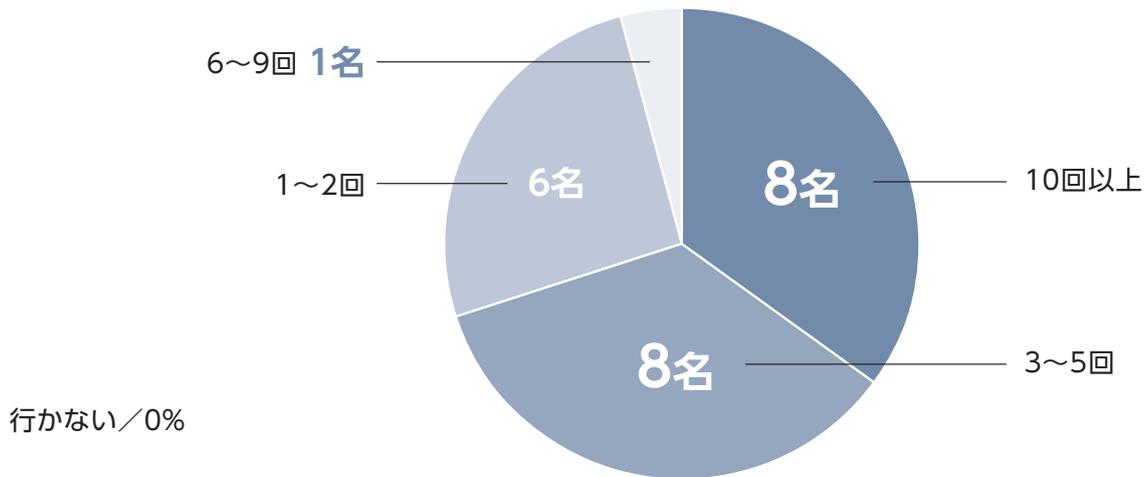
⑩ 英語ガイドがあれば、どのようなプログラムに参加してみたいですか。(複数選択可)



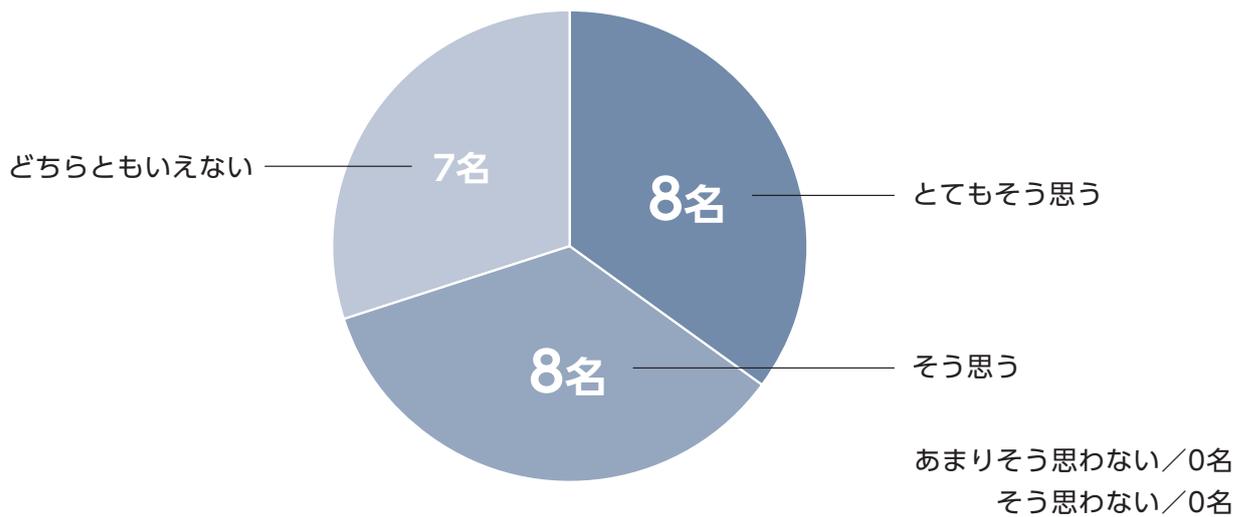
⑪ 「六本木アートナイト」に参加されて、六本木の「街」としてのイメージに変化はありましたか。



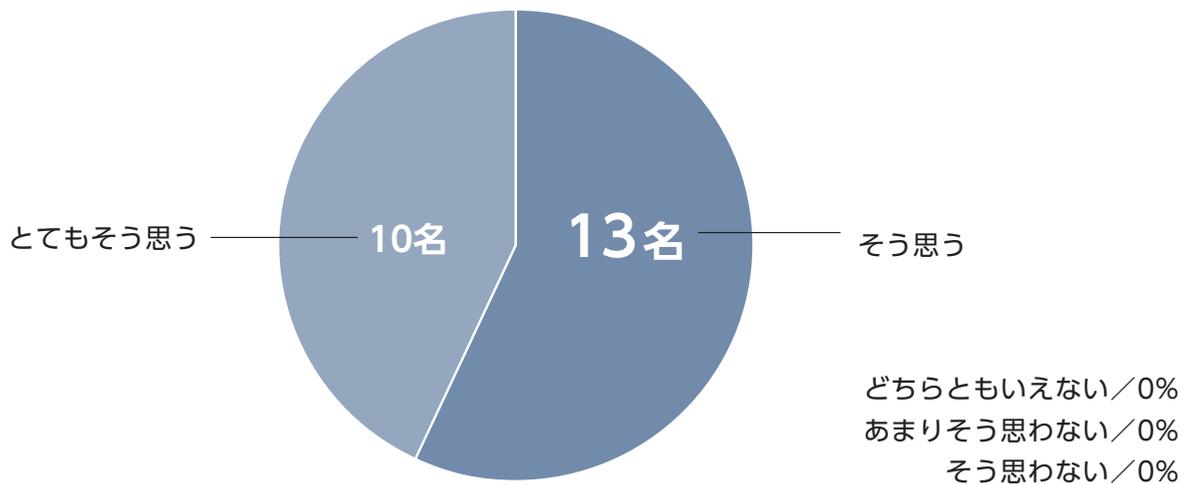
⑫ 1年間で美術を鑑賞する機会はどのくらいありますか？



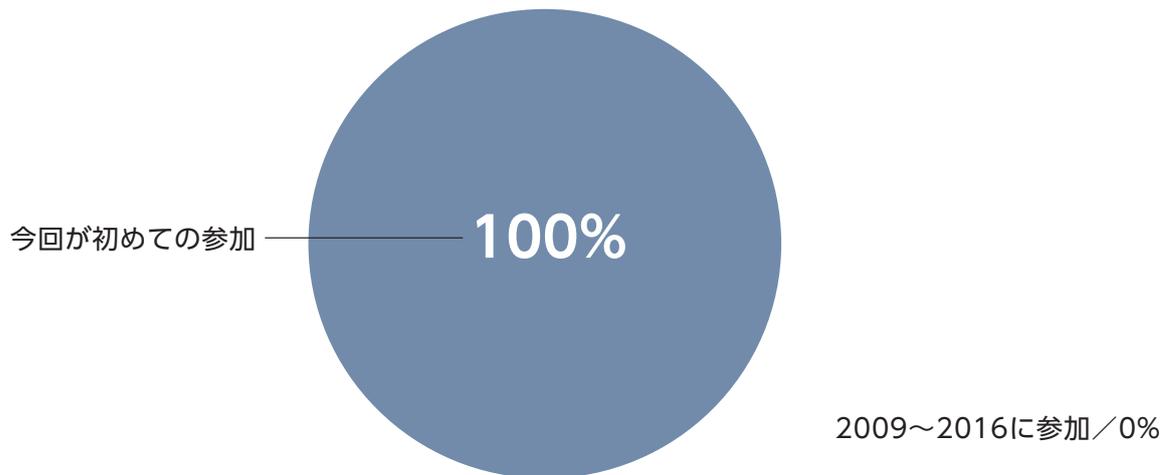
⑬ 美術に対する関心は高まりましたか？



⑭ 日本文化に対する理解や関心は高まりましたか？

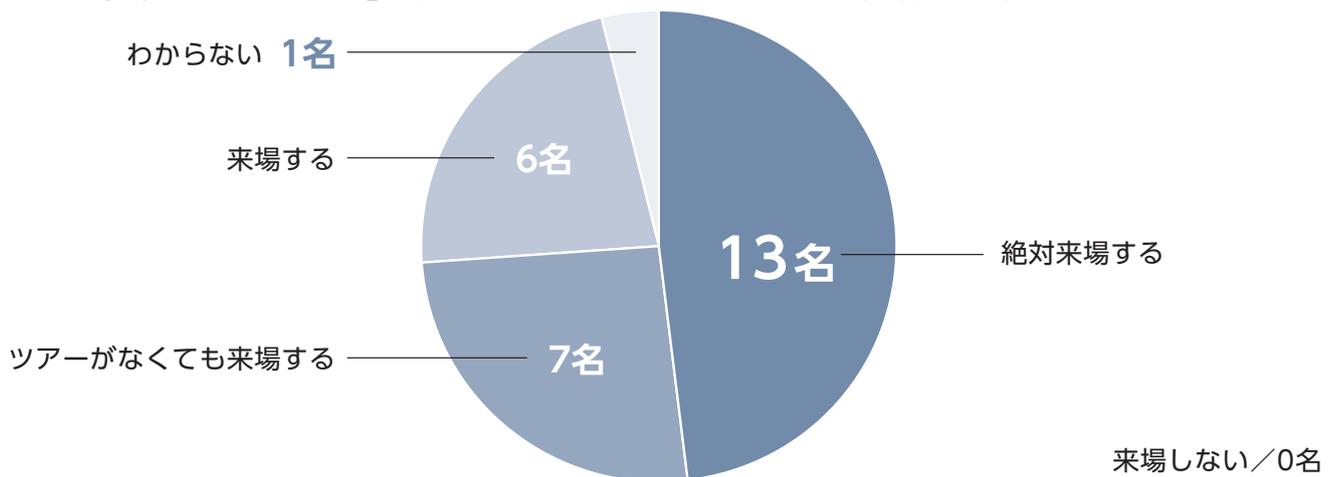


⑮ 過去に「六本木アートナイト」に参加された経験はございますか。(複数選択可)



⑯ 次回開催した場合

「六本木アートナイト」に英語ガイドツアーがあれば来場して頂けますか。



⑰ どのような配慮や工夫があると

六本木アートナイトのプログラムに参加しやすくなると思いますか。

- ・事前の告知をもっとやってほしい
- ・英語のルートマップ、案内がほしい
- ・SNS、インターネット上の情報の充実
- ・ツアーの回数を増やしてほしい
- ・パンフレットでも日本の文化や作品の背景知識について解説してほしい

⑩ 本日のツアーでお話したような背景知識や文脈を知ると、
作品と向き合う体験に変化が生まれましたか？ それはどんな変化でしたか？
芸術鑑賞に、このような知識は必要だと思いますか？

- ・理解の助けになった、鑑賞体験がより豊かになった
- ・最初作品を見たときは「楽しい」とだけ思っていたものが、解説や作品にまつわる文脈を理解してその意味深さを感じることができた
- ・背景や文化について知ることによって作品に対して全く異なる見方ができるようになる。そういったことを説明してくれたのがこのツアーの重要な部分であり、その部分をもっと展開していけると思う
- ・アートについて、一歩立ち止まって考えるきっかけになる
- ・作品に向き合う新たな方法を提示してくれる。作品を一度ならず二度以上楽しめるようになる。
- ・文脈を理解できたことは今回のアート鑑賞体験においてとても重要だった
- ・同じアーティストとして、他のアーティストの意図やどのようにそれを実現しているのか見るのは興味深かった
- ・作品の重要なディテールに気づくきっかけになった
- ・文脈を知るとは鑑賞体験に変化をもたらすが、地元の人でも文脈を知らないことがあると思う
- ・たとえば神話への言及など、背景知識に依拠した作品があるのでそれを知ることができたのは重要だった

六本木アートナイト 2018

■開催日時〈メインイベント〉 2018年5月26日(土)10:00~5月27日(日)18:00

■コアタイム: 5月26日(土)18:00~27日(日)6:00

※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。

■開催場所: 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21DESIGNSIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■主催: 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、
六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21DESIGNSIGHT、
森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成: 平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

英語ガイドツアー Lost in Art Translation 報告書

発行: 六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL: <https://www.roppongiartnight.com/2018/>